

# 辺野古新基地建設のいま そしてたたかいの方向

沖繩の風 伊波洋一 参院議員に聞く

安倍首相と政府による沖繩・辺野古の新基地建設強行。県民の怒りとたたかいは広がり全国的な運動になっていきます。その先頭に立つ「沖繩の風」の伊波洋一参院議員に基地建設の現状やたたかいの方向について聞きました。(6月12日)



## 安倍政権vs翁長知事と県民

辺野古新基地建設は、2012年末に第2次安倍政権が誕生してから急展開しました。「普天間基地の県外移設」を公約していた前の仲井真弘多知事は、政府による脅し、振興策の懐柔によって13年末に公約を破り、「辺野古埋め立て申請」を承認しました。

14年1月、稲嶺進名護市長が再選、7月に「島ぐるみ会議」が結成されます。14年11月、翁長雄志知事が10万票の大差で勝利し、

12月の総選挙では全4区で「オール沖繩候補」が勝利しました。

安倍首相や菅官房長官は、こうした民意を無視し、翁長知事との面会を5カ月も拒否し、この間隙をぬうようにして15年1月に県の許可なく防衛局が辺野古の海に埋め立ての巨大プロジェクトを投入し工事を開始します。

翁長知事は、15年1月に「前知事の辺野古埋め立て承認」を検証する専門家による第3者委員会を設置します。7月、同委員会から埋め立て承認の法的手

続きに「瑕疵あり」との報告を受けて、10月に埋め立て承認取り消しを防衛局に通知します。

ところが政府は、「承認取り消しは無効」と、裁判所に県を提訴するなど前代未聞のなりふり構わぬ行為にでて、いまも強行に工事を続けています。これは安倍政権の戦争する国と一体のものです。

翁長知事は、あらゆる知恵、手段をもって阻止すると、これから岩礁破碎許可を得ないで進めている辺野古工事差し止め訴訟をすると表明しました。

## 反対運動の原点

辺野古問題の一つは、アメリカ

力が不当に土地を取り上げてつくった基地を返す代わりに、新たな基地を寄せという。こんな人権無視も甚だしい要求には県民はとてもしゃないけど納得できないということです。これが一番大きな根拠です。

もう一つは今のやり方で日本が進めば日本が戦場化され、沖繩がまた再び戦争の最先端に置かれる。この二つの思いがあつて辺野古の基地建設反対の運動が強く持続されていると思えます。

この思いは中国脅威論もあふれるなか、若い人などみんなに共有されているわけではないとは思いますが。ですが沖繩県民は直感的に軍隊が自分たちを守るものではないということを経史的にも教訓として知っています。そこが毎日の行動の力になっていると思えます。

全国の皆さんのいっそうのご支援を切にお願いします。



辺野古新基地建設阻止の県民総行動

### 県民の怒り、本土と連帯

沖縄に基地がある限り、事件や事故は続きます。その最たるものが、昨年の元海兵隊員による20歳の女性暴行・殺害事件です。その前には、1995年の米兵3人による12歳の少女暴行事件がありました。この事件に抗議する県民大会には、それぞれ6万5千人、8万5千人もの県民が参加する大規模なものとなり

ました。

県民の世論調査でも、新基地建設反対は7〜8割をしめています。

高江ヘリパット建設もそうですが、辺野古新基地建設でも毎日、座り込みの抗議行動が100人、2000人規模で続いています。そのために各市町村の「島ぐるみ会議」がバスを走らせ、全国各地からも毎日数十人が駆けつけています。

そして、非暴力、合法的に抗議行動をしています。ところが政府は、警察を使って座り込みの人たちを排除するなど不当な弾圧をしています。これが県民の怒りをさらに広げる結果となっています。5カ月間不当に勾留されてこの3月に釈放された山城博治沖繩平和センター議長もそのひとりです。

私も、県民の怒りと期待を受け、昨年の参院選沖繩選挙区で現職大臣に10万票の差で勝利することができました。

### たたかい全国へ広がる

国会での院内集会や各地で開かれる大規模集会で、共謀罪創設反対などと共通の課題として辺野古の新基地建設反対のたたかいが位置付けられています。

6月10日の「共謀罪」・新基地ノ1の国会包囲行動には1万8千人が参加しました。沖縄の基地問題が全国共通の課題となってきたと思います。

また2015年には「辺野古基金」が創設され、今までに全国から集まった基金は6億2千万円になりました。主に新基地建設反対運動のために使われています。例えば、ボートの購入とか15年8月から9月にかけて、50を超える全国紙を含めた新聞に意見広告を掲載するために使われました。

訪米要請派遣費用の一部とか座り込みに各地から派遣する「辺野古バス」のための費用、さらに各種イベントへの助成などにも使われています。

### 各地で声をさらに大きく

これからのたたかいですが、より多くの人が名護市辺野古の米軍キャンプ・シユワブの新基地工事用ゲート前に座り込んで、工事の進捗をよく遅くさせることです。6月になって工事が遅れているという事で座り込みに対して強制的排除という手荒なことが行われています。60代の女性が囲い込みに押し込まれ、こゝろんで脳挫傷を起こし入院中というひどい仕打ちも起きています。強制排除による市民の被害が多発しています。一方で重装備の機動隊員が高齢の女性から暴行を受けたと告訴したり、めっちゃくちなことが行われています。ですからより多くの人の座り込み参加で工事阻止のたたかいを大きくする必要があります。

全国的にはより多くの人たちに辺野古の状況を知ってもらって、それぞれの地域で声を上げていただきたいと思います。